



東北防衛局では、日米の相互理解を深める取組みとして、在日米軍関係者と地域の住民の方々がスポーツ、文化などを通じて交流を行う「日米交流事業」を開催しています。

令和8年2月28日（土）、米空軍三沢基地と青森県上北郡東北町の日米の小学生とその保護者を対象とした、日米交流ひな祭り in TOHOKU Town 2026 を東北町の小川原湖交流センター「宝湖館」で開催しました。

日米の親子約40名が集まり、交流ゲーム、ボトルランプ工作、琴の演奏、着物の試着、餅つき、料理体験で交流を深めました。

交流に先立ち、池松英浩東北防衛局長が「日本とアメリカは互いにとって大切な国です。私たち東北防衛局は、日本人とアメリカ人がこれからもずっと友達であって欲しいと願っています。」と挨拶し、続いて、来賓を代表して長久保耕治東北町長が「日米の子どもたちが『楽しく、仲良く、元気いっぱい』に、日本の伝統と文化に触れながら、遊びを通じて交流の輪が広がることを大いに期待しております。」と挨拶しました。

交流ゲームでは、体の動きだけでお題を当てるジェスチャーゲームを行い、ボトルランプ工作では、シールやマジックペン使い、親子が協力してオリジナルのボトルランプを作成しました。

琴の演奏では、「さくらさくら」や「荒城の月」、「アメイジング・グレイス」が披露され、演奏後は、希望する児童が実際に琴に触れて、琴の音を体験しました。

料理体験では、親子でカップちらし寿司の盛り付けや、茶碗蒸しの具材入れなどを行い、参加者全員でひな祭りにちなんだ料理を楽しみました。中には、おかわりをする児童もあり、笑顔あふれるお昼となりました！

着物の試着や餅つき体験も楽しんだ参加者からは「最高に楽しかった。」「アメリカ人の友達が出来てとてもうれしいです。」と感想が寄せられました。

東北防衛局は、在日米軍と地域住民の方々の相互理解の一助となるよう、今後も様々な形で活動してまいります。



【ボトルランプ工作】



【ボトルランプ工作】



【琴の演奏】



【琴の体験】



【着物の試着】



【着物の試着】



【餅つき体験】



【料理体験】



【集合写真】